

① カルロ・ガステイーニ

(1833-1902)

ヴァルドッコの詩人

サレジオ同窓会連合創始者

- ② 彼がサレジオ会について愛情をこめて話すことは滅多にないことです…私の家族はブエノスアイレスの扶助者聖母・聖カルロス大聖堂においてサレジオ会によって霊的に育まれました…祖母の家にいた時は、フランシスコ・サレジオのオラトリオに通いました…もちろん、私はサン・ロレンツォ（サッカークラブ）のファンです…ラモス・メヒアのサレジオ会の学院では、寮生活は私の《全て》でした:それは良心の目覚め、責任感、そして超越の地平を生み出しました…私たちは創造性について教育を受け…そして寝るときには扶助者聖母に祈ることを学んだのです。

(教皇フランシスコ)

- ③ 私たちの世界はドン・ボスコの同窓生を必要としています。

彼らの特異性はまさに世界、最も多様な社会的領域、家族、職場、文化、そして政治における彼らの存在にありますドン・ボスコが望んだように、彼らのミッションの領域は継続する養成もしくは相互の連帯を通しての兄弟姉妹の絆の強化にあります。決して内輪のためだけの自己言及的なものではなく、世界においてより重要であり、彼らが受けた教育の価値を証し、より良い世界の構築に貢献し、貧しい若者たちのためのミッションにおけるサレジオ会の働きを支援することです。

そしてこれは可能なことなのです。何故なら同窓生は世俗の一般信徒として他の人々が届かないところにも手を差し伸べ、影響を与えることができるからです。

アンヘル・フェルナンデス・アルティメ総長

ドン・ボスコ第 10 代継承者

- ④ カルロ・ガステイーニはいかにしてドン・ボスコに倣うかの良い例だと言えます。同窓生として最初の一步を踏み出したのは彼であり、そしてドン・ボスコと共にサレジオ家族の一員となる方法を私たちに示してくれました。彼と彼の友人たちは、

世界において一般信徒であり感謝を知るものとしての彼ら自身をドン・ボスコに捧げました。その瞬間から、同窓生はサレジオ家族の一員になりました。私たちの役割はドン・ボスコの夢を遂行する鍵となることです。私たちのミッションは在俗の一般信徒の専門家としての私たちの知識や技術を同窓生やサレジオ家族の奉仕において差し出すことであり、また常に「善きキリスト者、誠実な市民」であるというモットーを実現することです

ミノル・ホルト

世界連合会長

⑤ カルロ・ガステイーニの生涯

トリノ、0 年目

矛盾の街、トリノ

- ◆ 大陸におけるマンチェスター
- ◆ 田舎から都会へ
- ◆ 1841 年、街には 128,000 人の住人がいた。
人口は 1800 年から倍増した。
- ◆ 2 本の川沿いに工場が建てられ、ポー川沿いの隣り合うヴァルドッコおよびアルドラとヴァンキリアが大きくなった。
- ◆ 疎外された周辺地域と過酷な労働条件は、アルコール依存症、虐待、病気を引き起こした。多くの子どもたちが孤児となった。

1841 年、若きヨハネ・ボスコが司祭叙階を受けるべくトリノに到着した時、そこでは 7,148 人の 10 歳以下の子どもたちが働いていた。失業のため犯罪に走り、トリノの監獄は若者たちであふれていた。彼らの多くは La Generala (1847~1944) として知られた矯正センターに入れられ、多くの者が Rondò de la Forca (絞首台広場) で死刑に処せられた。

⑥ カルロ・ガステイーニの生涯

孤児

1833: カルロはアントニオ・ガステイーニとマリアの息子として 1833 年 1 月 23

日に生まれ、25 日にサン・ダルマッツォ教区で洗礼を受けた。彼にはマルコという兄と妹が一人いた。

1847:父親を亡くしたカルリーノは、14 歳でダウンタウンの床屋の徒弟として働きに出なければならなかった。ドン・ボスコはロンド・デ・ラ・フォルカの楡の木の横で泣いている彼と妹を見つけた。彼らは母親をも亡くし、そして家も失ってしまったのだった。

⑦ カルロ・ガステイーニの生涯

ヴァルドッコのオラトリオ

1847: オラトリオのインターンとなる

1848: ドン・ボスコが彼に奇跡を行う

1849: ガステイーニとレヴィリオは貯金をはたいてボテッキ宝石店で2つのハートの銀細工を購入する。

1849: 11 月 1 日、ヴァルドッコでの栗の奇跡を目の当たりにする。

1850 オラトリオ: アニメーターとして呼ばれる。

⑧ カルロ・ガステイーニの生涯

ドン・ボスコの神学校

1849: カルロとその修練生仲間はトリノの神学校のクラスに参加する。

1851: 1851 年 2 月 2 日、ピナルディ・チャペルにおいて、レヴィリオ、ブッゼッティ、ベリアとともにドン・ボスコからカソックを受ける。カルロ・トマティスとともに、ドン・ボスコから劇場によるアニメーションを任される。

⑨ カルロ・ガステイーニの生涯

家族の父

1852: カルロ、修練期を離脱する

1854: 製本工房で働き始める

1855: 彼の特徴のひとつとなる髭を伸ばし始める

1856: オラトリオを出て外で暮らし、働くようになる

1860: 彼は 70 歳まで生きる、とドン・ボスコが予言

1861: ドン・ボスコの司式でジュゼッパ・ロラと結婚

Corso Regina Margherita, 176 に住む

⑩ カルロ・ガステイーニの生涯

製本作業場のマスター

1861: ドン・ボスコはカルロに全権を委託し、ジャルディニエラ通りの横のフィリッポの小屋に製本作業場を作る。

1863: 娘のフェリーサが生まれる。ドン・ボスコが洗礼を受ける。

1866: フィリッポの小屋のかつての書斎に劇場が作られる。ドン・ボスコは 2 人のカルロ〜カルロ・ガステイーニとカルロ・トマティスにこれを任せる

⑪ カルロ・ガステイーニの生涯

晩年

1876: ジュゼッピーナが 36 歳で亡くなった後、Corso Principe Eugenio, 2 に引っ越す。

フェリチーナが従兄のエウジェニオと結婚する 1893 年までともに暮らす。

⑫ カルロ・ガステイーニの生涯

死

1895: 彼の唯一の孫娘、ローサ誕生

1897: 64 歳で引退

1902: ドン・ルアと家族に看取られ、死す。《Non ho più nulla da fare quaggiù. Spero che Don Bosco mi aiuterà ad unirmi con lui in paradiso》[ここではもうこれ以上何もすることはない。ドン・ボスコが、私が天国で彼と一緒にいるのを手伝ってくれることを願う] 彼の最後の言葉である。総評議会、多数のサレジオ会員、ヴァルドッコのすべての若者、ドン・ボスコのかつての教え子たちが、同窓会創設者の棺に同行して記念墓地に向かった。

「ここではもうこれ以上何もすることはない。ドン・ボスコが、私が天国で彼と一緒にいるのを手伝ってくれることを願う」

⑬ カルロ・ガステイーニの業績

オラトリオの精神を維持する

1870: ヴアルドッコのオラトリオのかつての寮生たちの最初のミーティング。ドン・ボスコの誕生日を祝うため、カルロ・ガステイーニが招集し、Piazza Statuto, 22 にあるバーに集まる。

1874: ドン・ボスコは同窓生たちに会うために 1 日予定を開け、その日を彼らとともに過ごした（ミサおよび昼食）。現在の年次総会のはしりである。

1876: 現在の学生と同窓生たちがお祝いの席で初めて一堂に会する。亡くなった生徒たちへの言及も始まる。

⑭ カルロ・ガステイーニの業績

ひと時の抱擁を長い旅路に変える

1877: 有名なフレーズが生まれる。

«私たちは皆ドン・ボスコから来ました».

ガステイーニが長を務める委員会の話が初めて出る。後のオラトリオの同窓会につながるものである。

1879: ドン・ボスコと同窓生たちの毎年恒例の昼食会は、『ピナルディの家』の中庭からポルチコ（酒樓式玄関）までズラリと連なって行われた。サレジオ会会報の中で、オラトリオの同窓生のことに初めて言及される。同窓生の昼食会は、現在では食堂ではなく、ヴァルドッコのポルチコの下で行われている。

⑮ カルロ・ガステイーニの業績

ひと時の抱擁を長い旅路に変える

1888: ドン・ボスコ逝去。カルロの甥、ヴィツェンツォ・ガステイーニがヴァルサリーチェにドン・ボスコの最初の墓を建てる。

1889: 同窓生たちはヴァルサリーチェおよびトリノの聖フランシスコ・サレジオ教会で記念の銘板の除幕式を行う。

1891: サレジオ会会報においてサレジオ同窓会連合について初めて言及される。同窓生たちはベッキ村のドン・ボスコの生家の修理を支援し、記念の銘板を設置した。

⑩ カルロ・ガステイーニの業績

法的認定を伴う連合体

1894: 新しい劇場のこけら落としに参加。この劇場は未だに存在している。元内部生の会は元外部生をも組み込み、ヴァルドッコの同窓生連合と呼称する。ポンペオ・ペトロンチーニ (Pompeo Petroncini) は『ドン・ボスコの吟遊詩人 (Il Menestrello di Don Bosco)』と題した詩をカルロに捧げる。同じく同窓生のジュゼッペ・ロリーニ (Giuseppe Rollini) はヴァルドッコの扶助者聖母大聖堂に、ジャーナリストの守護聖人である聖フランシスコ・サレジオの隣に、彼を印刷工として即興で描いている。

⑪ カルロ・ガステイーニの業績

法的認定の達成

⑫ 一人一人が自身の家庭や仲間内において宣教師となり、善き模範となり、善き助言を与え、善いことをするように。

私たちはお互いに助け合わなければならない。そしてサレジオの家から行い正しい若者たちが出るよう助けなさい。あなた方の名前、あなた方が教育を受けた家、あなた方の身につけた宗教、そしてあなた方の属する会を尊重するように。

あなた方がそうするならば、あなた方が生きている限り、あなた方の中に常に真の喜びが在るだろう。サレジオ家族のお祝いでは、私たちはみんな一緒に美しく、こぢんまりとした大家族を天国に形成することができるだろう。

これからさきずっと、この約束を誰も決して破らないとお互いに約束できるかな？

1878 年 8 月 4 日

ドン・ボスコ